



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2008.9

No. 293

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



カニ、フランクton、ときどき野鳥

青山 紘一 (坂戸市)

坂戸市に住民票を置きながら、市川の実家に帰ることが増えています。谷津干潟自然観察センターでボランティアもするようになりました。これが楽しい。そこで今日は、谷津干潟を中心に、いろいろな生き物との出逢いを紹介します。

実家からは**三番瀬が近く**です。途中で渋滞で有名な国道14号線がありますが50ccのバイクに乗っていくと三番瀬に約30分で着きます。潮時を見て早朝に行っています。

渡りのシーズンのシギ・チドリも楽しいのですが、潮溜まりを歩きながら足元のカニ、ヤドカリ、小さな魚などと戯れるのも大きな楽しみです。砂に開いた穴に手のひらを当てているとやがて中から突いてくるゴカイの感触を楽しんだり、マメコブシガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニ、イシガニ、ケフサイソガニなどを探して図鑑で調べたりします。

また、海岸に近い場所では、カニやエビと親戚だから？クモも楽しい生物です。クモは生息する場所によって種類の変化が明らかです。市川に帰る機会が増えるようになって、やはり海岸に近いクモの種類が多いことに驚きました。

ある場所の雑木林の一部を伐採したことがありました。その場所に陽が差し込むようになりクモの種類がまったく変わったことに驚きました。「場所を見なくてもクモを見ればこの場所に何か変化があったことが分かる」と思いました。

市川でも過ごすようになって、**谷津干潟自然観察センター**でボランティアをするようになりました。今年も観察センターの淡水池でセイタカシギが繁殖しました。ここ数年、毎年繁殖しています。しかし、去年はカメやヘビに捕食されました。今年も卵がバンに突かれてダメになってしまったこともありました。淡水池の泥に大きなヘビの跡があり、その近くにセイタカシギの足跡がたくさん残っていたという状況もあって、ヘビとセイタカシギ



トウキョウダルマガエル (提供「オリザネット」)

の猛烈なバトルがあったのだろうと想像できました。カルガモも毎年繁殖していますが、初めは10数羽いた雛がだんだん減っていきます。こんな状況は、5月から6月にかけての谷津干潟の毎年の恒例行事？です。

この淡水池に**トノサマガエル**がいるのは谷津干潟の不思議の一つです。図鑑では、「関東地方には分布していない。東京近郊でトノサマガエルといわれているのはトウキョウダルマガエルである」と説明されています。

従って、「トノサマガエルがいる」と言ってもほとんど信用されません。しかし、3年程前でしょうか、鳴き声から「この鳴き声おかしい」と言う疑問が出ました。そこで、採集した標本を千葉中央博物館に同定をお願いしました。

「トノサマガエルでまちがいない」と言われました。繁殖しています。

現在、マンションに囲まれているあの場所になぜ谷津干潟が残ったのか。印旛沼の水を直接東京湾に流そう、こんな計画がありました。昭和の時代です。測量も行われ、東京湾に流



毎月第1土曜日はプランクトン観察会

れ込む河口の部分は用地買収も済みです。用地買収が済んだ河口の部分が谷津干潟です。印旛沼から谷津干潟まで、何度かに分けて計画された用水路跡を歩いてみました。用水路の中心に打たれた杭を見つけました。「内」と掘り込まれていました。内務省の略です。この工事の途中で戦争が始まり、不要不急の工事であるということでこの計画も中止されました。このお陰で谷津干潟は残りました。せっかく残された自然、大事にしていきたいと思います。

観察センターには、いくつかの**ボランティアグループ**があります。鳥に関するグループはもちろん、植物、カービング、そして木工クラブもあります。観察センターの中にあるテーブルなどはこの木工クラブの作品です。

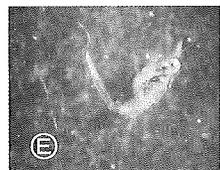
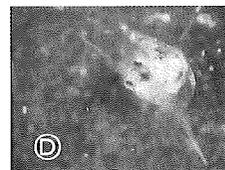
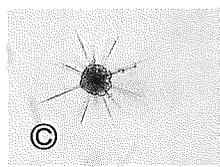
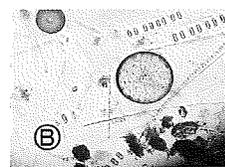
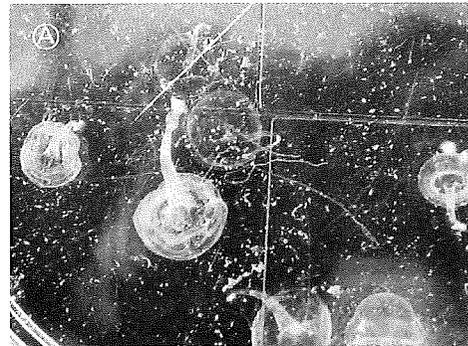
私はミジンコクラブというグループに属し、月2回大潮の日に干潟に流れ込む谷津川でプランクトンネットを引いて水を採集し、観察センターに持ち帰って顕微鏡で水の中のプランクトンをカウントしています。

実に楽しい。カニやゴカイ、貝などの幼生が水の中を泳ぎ回る様子は、Jazz サックス奏者で「**宇宙が見える〜ッ!**」と叫んでいる人がいましたがまさに小宇宙です(坂田明『ミジンコ 静かなる宇宙』と思われる。編集子)。

鳥の世界は大変な季節先取りですが、水の中は鳥よりもっと季節を先取りしています。「水温む」という言葉がありますが、温むより前、水の中の生物達は次の季節に向かって活動を開始しています。活動を始めた水中の生物達を見ていると間もなく鳥達も渡って来るな、と感じます。

たまに、**底生物の調査で干潟に入る**ことがあります。「10 数年前の谷津干潟は胸までの長靴を履かなければ入れなかった」と聞きます。現在は、普通の長靴で干潟の中の水深の浅い部分は歩けます。「本来干潟は、泥質でなければ豊かではない。現在の砂質化した干潟では豊かな生物相は期待できない」と言う人もいます。

谷津干潟ではアオサの問題もあります。谷津干潟が変化していることは確かです。しかし、干潟でウェービングをするカニ達、飛び回る愛嬌あるトビハゼ、そんな生物達を見ていると心が和みます。プランクトンがいるから魚やカニがいる。そんな豊かな環境を持った干潟に、シギ・チドリ達が渡る途中立ち寄り休んでいく。食物連鎖の一番下にいるプランクトンや底生物を見ていると、シギ・チドリ達のためにもこの干潟がいつまでも豊かであってほしいと思います。



Ⓐクラゲ、Ⓑケイソウ類、Ⓒ正体不明だけど通称「谷津干潟のスター」、Ⓓカニのゾエア、Ⓔエビのゾエア

2008年冬 カモ科調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査が実施された2008年1月12日から14日は、初日こそ雨が降ったが、その後の2日間は快晴が続いた。2007/2008年冬は例年並の気温であったが、ほとんどの調査地で合計数を減らし、カモ科総数は昨年度の30%減であった。調査地の変動はあるが、2005年から2007年までカモ科総数は14,000羽を越えていた。

大きく減った原因は、次のいずれかが考えられる。

- ・ 温暖化によるカモ科越冬地の北上
- ・ カモ科繁殖地での生息環境悪化

トモエガモは、昭和沼が未調査の影響が反映しているが、厳しい状況が続いている。

県内32ヶ所での36名の方々のご協力に深謝します。

(文責 小荷田行男)

調査地	入間川	荒川				古利根川		大宮調整池	利根川	濃良瀬遊水地	狭山湖	小群川調整池	新河原川	百穴湖	八丁湖	武蔵丘陵 森林公園					
		豊栄橋 新富士見橋	荒川鉄橋 戸手橋	(荒川系一調節池)	秋ヶ瀬橋 野根倉橋	南浦排水機場 びん沼川	五渡ダム										赤橋 堂面橋	藤塚橋 古利根橋			
調査範囲																					
地域	狭山市	戸田市	川口市	戸田市	さいたま市	さいたま市	高士見市	高士見市	越谷市	越谷市	越谷市	越谷市	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市	吉見町	吉見町	滑川町	
コハクテヨウ																					
オシドリ																					
マガモ																					
カルガモ																					
コガモ																					
トモエガモ																					
ヨシガモ																					
オカヨシガモ																					
ヒドリガモ																					
オナガガモ																					
ハシビロガモ																					
ホシハジロ																					
キンクロハジロ																					
ホオジロガモ																					
ミコアイサ																					
カワアイサ																					
カモ spp																					
個数	3	4	9	0	4	3	4	3	7	2	10	6	5	8	5	2	5	2	2	9	
合計	64	23	188	0	156	47	228	63	143	7	4269	209	188	282	158	127					701

大沼公園	川越水上公園	県立農林公園	さきたま七塚	白鷺沼	見沼自然公園池	柳澤川	黒沼沼	元荒川	緑の丘公園	宝蔵寺沼	川島町越辺川	大宮第3公園	大宮公園	さいたま市芝川	加田鹿川	見沼代用水東線	見沼代用水西線	合計	
大沼	池全部	芳沼	古墳の池全部	沼全部	池全部	高士見橋 家橋	上沼	城北大橋 水管橋	池全部	池全部	八幡団地前	池全部	池全部	山口橋 八丁堤	七里公園 加田鹿橋	七里公園 山口橋	浦和西高 附島橋		
熊谷市	川越市	深谷市	行田市	さいたま市	さいたま市	吉本市	高士見市	さいたま市	松伏町	羽生市	川島町	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市		
																			68
																			22
																			2866
																			1890
																			1305
																			2
																			9
																			113
																			968
																			274
																			05
																			80
																			287
																			5
																			78
																			2
																			2108
																			16
																			35
																			200
																			508
																			325
																			28
																			224
																			114
																			107
																			203
																			58
																			218
																			144
																			213
																			528
																			116
																			138
																			113
																			10162

間近にホトトギスに出会う

野村弘子(春日部市)

奥日光の赤沼から湯滝まで探鳥していたところ、5～6m先の左手、木道から川の中にはみ出た高さ2～3mの小木に茶色の鳥を発見。双眼鏡とプロミナーを向け、「赤色型のツツドリ？ いや、小さい」と思っていると飛ばれ、その下の笹のある木道の下に逃げ込まれました。一瞬の出来事。

少し先に進むと、笹のところから出て先の木に、そして木道の端にとまったのです。急いでプロミナーを向けて撮ったのが、この写真です。



やはり小さいし、とがった感じで胸の横線も少なく、黄色のアイリングがくっきりと見てとれました。

ホトトギスの赤色型と判断しました。鳴き声はここでは聞きませんが、途中カッコウとホトトギスの声は何回か聞きました。ツツドリの声は一度も聞きません。

こんな出会いは、探鳥して10年余り、初めてです。最後かもしれない。

困ったカメラマンたち

海老原美夫(さいたま市)

■ さいたま市桜区、大久保農耕地の土手の上に椅子を据え、風に吹かれて本を読みながら、ヨシゴイが出るのを待っていました。左手の離れたところで4人のカメラマンたちが談笑していました。そのうち2人が急に私の後ろを走りはじめました。なんだなんだと思っていたら、右手土手の中腹からキジ♂1羽

が飛び出しました。キジが飛ぶところを撮影したいので2人がカメラを構え、2人が走って追い出したらしいのです。

この人たちは野鳥が好きじゃないんだ！あまりのことに声をかけるのも忘れてしまいました。

■ さいたま市岩槻区の公園で、フラッシュや録音の声を使うマナーのひどく悪いカメラマンがいるとの話を聞きました。そのブログを見ると、録音の声を聞かせてアオバズクを昼にも飛ばせていることを本人も暗に認めており、サンコウチョウの巣の写真なども自慢げに掲載されていました。

私はブログに直接コメントを送りました。

「あなたは野鳥の会の会員ですか？ 野鳥の会では巣の写真を撮影しないように呼びかけていることをご存知ですか？」などなど。そのコメントは数時間掲載されていましたがまもなく見えなくなりました。都合の悪いものは削除してしまうようです。

この人には県鳥獣保護員が指導しているけれど、状況はなかなか変わらないとも聞きました。

■ 狭山市内の神社にアオバズクを見に行ったA氏から聞いた、あるカメラマンの話。「ストロボ撮影するやつは悪いよな。オレは撮影のじゃまになる枝は切るけど、ストロボ撮影はしない。枝を切るのはしょうがないけど、ストロボ撮影は悪いよな、な」

A氏、「ええと、両方まずいんじゃないですか……」

こんな話が續いて、暑苦しい夏です。「野鳥の会に入ると、マナーとかなんとかうるさいから、入らない」とよく聞きますが、もつとうるさくなりましょう。

機会があつたら、みんなで少しずつ話してみませんか。喧嘩にならないように柔らかい言葉で。A氏の「ええと、両方まずいんじゃないですか……」みたいに。

県鳥獣保護員に指導をお願いしたい時の連絡先は、自然環境課(電話 048-830-3140、FAX 048-830-4775、E-mail a3140@pref.saitama.lg.jp)の野生生物担当です。



野鳥情報

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇6月1日、自宅周辺でチョウゲンボウ4羽(藤原寛治)。

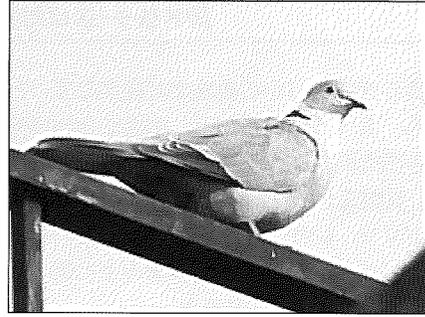
所沢市山口 ◇6月15日午前7時30分頃、ツミの声が盛んに聞こえていた。10時頃、今度は更に自宅近くで声が聞こえたのでベランダに出てみると、50mほど離れた桜の木から1羽鳴きながら飛び出し、旋回しながら上昇していった。双眼鏡を持って出ると、いつの間にか2羽になっていた。1羽が翼をたたんで急降下しては浮上する行動を数回繰り返し、そのうちに視界から消えた。その後も時折鳴き声が聞こえていた(小林茂、ますみ)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇6月22日午前9時頃、ホトトギスがさかんに鳴きながら飛び回る。ここでは珍しい。キビタキの声が聞こえた。時期的にかなり遅い(海老原美夫)。

さいたま市桜区大久保農耕地B区 ◇6月27日、電柱の上にハヤブサ1羽。あまり動かず2時間も休んでいた。真下を人が通っても飛ばない。人なれしているのか? 7月1日、オオヨシキリの幼鳥が多数見えるようになった。ギギギッと鳴きながら親に餌をねだっている。7月6日、目先と全体が赤く染まっている婚姻色のヨシゴイ♂1羽。幼鳥はまだ見えない。7月19日、ようやくヨシゴイ幼鳥5羽と3羽+の2家族。昨年より2週間くらい遅い感じ(海老原美夫)。

川島町中山 ◇7月1日午前6時頃、カミさんと朝の散歩中、国道254号旧道「山田うどん店」前の電線にキジバトラしき1羽、近づくと地面に降りていたもう1羽が電線によく見るとキジバトより少し小さめで、なにより羽の色が白っぽく、キジバトではないようだ。もしかしてこれがシラコバト? 電線の真下を通ったら2羽とも西の越辺川方向に飛び去った。家に帰って2人で野鳥図鑑を見て確認したら、間違いなくシラコバトで一致。さっそく『しらこばと』7月

号同封の葉書に記入しました。7月13日早朝には写真撮影できました。シラコバト



ですよネ(阿部義裕)。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇7月10日、山田大沼周辺でツバメ50羽土が空中を舞い、ガビチョウの声が騒がしい他は至って静かだった。越夏のマガモ♂1羽、カルガモ2羽、カワセミ1羽、たまにウグイスのさえずり、カワウ多数(長嶋宏之)。

上尾市井戸木3丁目 ◇7月19日午前5時40分、妻といつものウォーキング中にカッコウ1羽、「カッコウ・・・カッコウ」と鳴く。近くにはオナガが飛んでいた(立岩恒久)。

さいたま市南区白幡沼 ◇7月24日、カイツブリの二番子3羽が親に餌をねだっている。胸が黒く下嘴と足が赤いカワセミ幼鳥♀1羽(「カワセミ幼鳥の嘴は上下とも黒い」と記述している図鑑もあるが?)。ホシハジロ♂1羽越夏中(海老原美夫)。

吉見町八丁湖周辺 ◇7月30日、湖で4家族のカイツブリが子育てしていた。親鳥が小魚をくわえて浮き上がる度に、まだ潜水できない幼鳥は「ピーツ ピーツ」鳴きながら餌をねだって近寄っていた。林の中ではシジュウカラが枝移りし、ウグイスがさえずり、アオゲラの鳴き声が響いた。湖を半周したところでコジュケイの「チョット来い」の声。ひときわ大きい声はガビチョウか。帰り際にホオジロが囀ってくれた。その他ツバメ多数、キセキレイ1羽(長嶋宏之)。

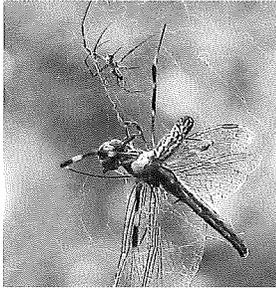
表紙の写真

スズメ目アトリ科カワラヒワ属カワラヒワ

撮影 落合英二



行事案内



ジョウロウグモとアキアカネ(編集部)

リーダー研修会(要予約)

期日：9月7日(日)
会場：埼玉県自然学習センター
詳しくは8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月14日(日)
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居
8:49発に乗車。
担当：大澤、後藤、森本、倉崎、新井(巖)、
中里、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、
千島、鶴飼
見どころ：この時期、渡り鳥のツツドリ、シ
ョウドウツバメ、エゾビタキが通過して
いきます。足元にはヒガンバナ。赤とん
ぼも舞っています。小さな秋を見つけに
出かけて見ませんか。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月15日(月・祝)
集合：午前9時、東武越生線川角駅前。
交通：東武東上線川越8:10→坂戸で越生線乗
り換え8:39発。または寄居7:38→小川
町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR
埼京線大宮7:34→川越で東武東上線乗
り換え。
担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高
草木、高橋(優)、林、藤掛、藤澤、増尾、

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申
し込みの必要はありません。初めての方も、青
い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけくださ
い。私たちがあなたを探していますので、ご心
配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生
50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨
具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの
観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後
1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。
できるだけ電車バスなどの公共交通機関を
使って、集合場所までお出かけください。

持丸、山田(義)

見どころ：夏から秋へと移り変わる季節。身
近な鳥、そして秋の草花たちも楽しみま
しょう。9月は昨年一昨年と、オオタカ
もサシバも飛んでくれました。今年はどう
かな。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月15日(月・祝)
埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシ
ギ・チドリ類の調査を行っています。特に下
記の地点では、より多くの会員の参加・ご協
力をお願いいたします。

◆大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、運動公園入り口。
担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不
要です。雨天でも行います。秋はシギ・チド
リ類が大変少ないこともあります。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月20日(土)午後3時～4時ころ
会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月21日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前9

時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、赤堀、
新部、青木、増田、宇野澤、小管、須崎、
舟木

見どころ：秋の渡りの季節。立ち寄る鳥たち
に出会いたい。ツツドリ、コムクドリ、
エゾビタキ……。コガモがアシ原で休ん
でいたり、青空にサシバの姿が見られた
ら嬉しいな。モズが鳴きながら待ってい
ます。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月23日（火・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車
場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バス
乗り場から8:50発エローラ行きで「松伏
高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、吉岡(明)、
榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、土澤、
森下

見どころ：ヒガンバナにはシラサギが良く似
合うと言った人がいたとか。去年はサギ
だけで6種じっくりと観察できました。
ツバメが残っているのに、早くもコガモ
が姿を見せてくれました。今年ヒタキ
やシギの仲間もきっと顔見世してくる
と思っています。

タカの渡り調査

期日：9月28日（日）

半日空を眺めているだけで、貴重なデータ
が得られます。タカ類についての知識も増え
ます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天（小
雨でも）中止。調査のため参加費は不要。い
ずれも、調査時間内のご都合のよい時に、調
査地点にお出かけください。

◆ 天覧山（飯能市）

調査時間：午前8時から正午まで。

近くに水洗トイレあります。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分

担当：佐久間

◆ 物見山駐車場（東松山市・鳩山町）

調査時間：朝から正午すぎまで

◆ 小川げんきプラザ本館屋上（小川町）

調査時間：朝から正午すぎまで

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月28日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:40発、または所沢
8:33発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山
本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、
星

見どころ：暑かった夏も終わり、入間川にも
すこしずつ冬鳥がやってくる季節になり
ました。渡りの途中の鳥たちとともに探
してみましよう。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月25日（土）～26日（日）

集合：25日午前9時00分、長野駅コンコー
ス、新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52
→大宮7:18→熊谷7:32→高崎7:50→
長野8:43着）、または「あさま505号」（東
京7:28→大宮7:52→長野8:53着）。

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス
代、保険料など）。過不足の場合は当日精
算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、
電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼
一充（
）
まで。

担当：菱沼(一)、藤掛、中里

見どころ：春と秋の短い期間に、日本を通過し
ていく鳥たちがいます。彼らを旅鳥と呼
んでいます。山の小鳥ではマミチャジナ
イやムギマキがその代表的な旅鳥です。
埼玉県では見る機会の少ない、この2種
を探しに行きましょう。昨年10月には、
合計40種観察できました。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用
意はできません。



行事報告

1月12日(土) 松伏町 緑の丘公園

参加: 10名 天気: 小雨

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ オオタカ バン オオバン シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 当日はあいにくの小雨であったが、探鳥会を執行した。開園してからは公園内の池を園路からしか見ることができず、いつもいるはずのカモ類が姿を現さない。しかし工事中の盛土ではベニマシコが今年も餌をあさっていた。公園から古利根川に向かうところで待望のシラコバトが参加者を喜ばせてくれた。(橋口長和)

1月26~27日(土~日) 千葉県 銚子港周辺

参加: 26名 天気: 快晴

オオハム カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ウミウ ヒメウ コサギ アオサギ ヒシクイ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ シノリガモ ミコアイサ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン シロチドリ タゲリ ハマシギ イソシギ ミユビシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ アイスランドカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (71種) (番外: ドバト) もう何も言えない。

充分堪能させてくれた2日間だった。最後に『地球が丸く見える公園』に上り、360度のパノラマのおまけ付きで探鳥会を締めくくった。(橋口長和)

2月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 51名 天気: 晴

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ バン イカルチドリ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 三室ではいつも複数のコースを用意、当日朝の下見と天候等を考慮してリーダーが協議して決定している。リーダー13名と参加者の熱意で穏やかな探鳥会になった。シロハラやシメ、カシラダカと冬鳥のスタンダードが出現した。

(楠見邦博)

2月23日(土) 東松山市 物見山

参加: 38名 天気: 晴

オオタカ キジバト アカゲラ コゲラ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) (番外: ガビチョウ) スタートしてしばらく「野鳥がいないね」との声。その後、前方ではエナガを、後方ではキクイタダキの30数羽の群れを観察。水辺に近づいてやっとなルリビタキ。下見で確認出来たベニマシコは留守だった。アカゲラ、コゲラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ等を見ながら、物見山山頂へ。鉄塔の上に止まっているオオタカを見ながら鳥合わせ。鳥数が少なかったので、鳴き声を頼りに静かに探す参加者の皆さんの姿が、真剣でとても素晴らしかった。(藤掛保司)

2月23日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 30名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ホシハジロ オオタカ ノスリ コジ

ユケイ キジ キジバト カワセミ アオゲラ
 コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジ
 ユウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ
 ジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシ
 ボソガラス ハシブトガラス (34種) 園内では久
 し振りにエナガを見つけ、小動物園を過ぎてから
 これも久しぶりのアオゲラと、いい調子。池には
 初めてのホシハジロ、またカワセミの出現とラッ
 キーなことばかり。荒川の土手に上がるとノスリ、
 オオタカの飛翔。公園に戻ると見られないかと思
 っていたジョウビタキに会えて良かった。お天
 気も春みたいに素晴らしかった。 (大坂幸男)

2月24日(日) 深谷市 仙元山公園

参加：14名 天気：晴

カワウ コサギ アオサギ カルガモ キジバト
 カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ ルリビタキ ツグミ
 キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジユウカラ
 メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム
 クドリ ハシボソガラス (24種) 前夜の雪が凍結
 し、冷たい北風が吹き付ける日。さすがに少数だ
 が、熱心な参加者が集まり探鳥会開始。滝宮神社
 ではキツツキのように幹にへばりついて樹液を吸
 うヒヨドリ、氷上をよちよち歩くキセキレイに笑
 いを誘われる。唐沢川合流点ではお約束のカワセ
 ミがお出迎え。前向き後向きとポーズをとって
 くれた。土埃にかすむ中を仙元山に着くと早速ク
 イタダキが出てくれた。出現種は少なかったが、
 カワセミ、キクイタダキの大サービス、鳥合わせ
 直前に現れたカラ類、エナガ、メジロ、コゲラの
 大きな混群に楽しませて貰った。 (新井 巖)

2月24日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加：25名 天気：晴

カワウ コサギ カルガモ イカルチドリ キジ
 バト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ ツグミ ウグイス シジユウカラ メ
 ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒ
 ワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
 ハシブトガラス (22種) 前日の午後からの「春の
 嵐」で公共交通機関も止まる程の強風が吹きま
 くり、土埃がひどい。開始前は「参加者はリーダ
 ーくらいか」と思っていたが、熱心な25名が集
 合。

確認種は少なかったが、風が静かな場所ではア
 オジやシメ、イカルチドリなどをじっくり観察。
 コースを短縮して早めに切り上げた。参加者の皆
 様、お疲れ様でした。 (長野誠治)

2月24日(日) 富士見市 柳瀬川

参加：29名 天気：晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ
 オナガガモ イカルチドリ イソシギ キセケ
 レイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
 ヒヨドリ モズ ツグミ シジユウカラ スズメ
 ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20
 種) (番外：ドバト) 北西風が吹き荒れ、JR武蔵野
 線、JR川越線が運転中止の中、熱心な29名の参
 加者があった。土手の上ではフィールドスコー
 プを押さえてないと転倒の危険があって河原に
 下りたが、風が強くて安全に楽しく探鳥が出来な
 いため、早めに終了した。 (持丸順彰)

3月2日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：51名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
 モ カルガモ コガモ ハヤブサ チョウゲンボ
 ウ バン オオバン キジバト カワセミ アカ
 ゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
 ス シジユウカラ ホオジロ カシラダカ アオ
 ジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ
 ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハ
 シブトガラス (35種) 冷たい北風の中、元気に
 出発してアシ原でアオジやオオジュリン、上沼
 できれいなマガモのペア、林ではアカゲラ等
 を見てアシ原に戻った。突然、上空でこの探
 鳥会では初記録のハヤブサとチョウゲンボウ
 が大接近して歓声が上がった。最後に蛍の里、
 そして、その直後の水路でもカワセミが大サ
 ービスしてくれて終了した。 (玉井正晴)

3月8日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加：41名 天気：晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カ
 ルガモ コガモ ヒドリガモ キンクロハジロ
 オオタカ キジ クイナ キジバト カワセミ
 コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセケ
 レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタ
 キ アカ

ハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) (番外:ドバト) ポカポカ陽気の中をスタート。開始早々、シロハラ、ウグイスが出現。池のカモ類の種類は少なかったが、植物園では冬の小鳥たちが勢ぞろい。後ろから見たホオジロ、カシラダカの区別をしたり、アシの中から顔を出す鳥たちを見つれたり、声をするクイナの姿を必死に探したりで、あっという間に時間が過ぎてしまった。植物園を出るとキジみがみんなをお出迎え。クイナの姿が見られた人が1人だったのが残念ではあったが絶好の鳥見日和で大満足の探鳥会。終了後はK氏のデジスコ講座を開催した。(青木正俊)

3月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 41名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ コジュケイ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外:ガビチョウ、ドバト) 明戸堰の工事が3月末まで延期になって付近の道路は通行止めが続いている。ゴルフ場クラブハウス辺りから旧押切橋方面に向かい、コース南側の雑木林を通して広瀬河原まで歩いた。出現鳥が少なく心配されたがベニマシコが見られ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサが飛んでくれて、まずまずの探鳥会であった。(大澤 祐)

3月9日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 41名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ バン オオバン ケリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ

シブトガラス (36種) (番外:ドバト) 啓蟄も過ぎ暖かさが増し、満開のサンシュユの花を見ながら探鳥会開始。前半は出現鳥も少なく心配だったが、トイレ休憩後の後半は皆気を入れ直して徐々に出現し始めた。その内熱意が天空に伝わったのか、なんと目の前の田んぼにケリ1羽が舞い降りた。当探鳥会初認と言うハプニングだった。参加者のこれでケリがついたとのオヤジジョークに場も和む。鳥合せ後、山部編集部長の「ゲンコウクダサーイー」のさえずりで終了する。(工藤洋三)

3月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 5名

新井浩、江浪功、海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司

3月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 56名 天気: 晴

カワウ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ トビ コチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 年度末を控えて活発化していた芝川の工事を避けて、コースを逆に戻る。いつもの景色が変わって見えて楽しい。代用水近くの土の道に花々が咲き、アオジやジョウビタキが去り行く季節を惜しんでいる。ゆっくり楽しんだ花の探鳥会になった。(楠見邦博)



6月26日北海道旭岳、ギンザンマシコが目の前に現れました! (小林ますみ)



●鳥獣保護区指定に意見書提出

県第 10 次鳥獣保護事業計画による平成 20 年度鳥獣保護区指定に関し、松伏町のまつぶし緑の丘公園 26.5ha 全域を新たに鳥獣保護区に指定することと、深谷市・寄居町のかわせみ河原鳥獣保護区(38.0ha)を、さらに上流正喜橋まで 29.1ha 拡大して総面積 67.1ha にすることについての意見を、県知事から求められました。7月 20 日(日)の支部役員会議の議決に従い、7月 23 日(水)に藤掛支部長名の賛成意見書を提出しました。

●8月号の宛名ラベル重複

7月 12 日(土)の袋づめの会で、24 名分の宛名ラベルが重複しているのを参加ボランティアが発見し、財団本部の会員室に連絡しました。会員室で調べたところ、最近交代した担当者がプリンター操作に不慣れのための事故で、さらに 10 名分が重複していた可能性があることが分かりました。幸い、出力されなかった宛名ラベルはないようです。『しらこぼと』が 2 通届いた方には、不手際をお詫びします。万一 8 月号が届いていない方は、支部事務局にご連絡ください。

●「正子」は「しょうし」

昨年 8 月号本欄で、探鳥会解散時の「正午」は午前であるという記事の中に、夜中の 12 時のことは「正子(しょうね)」と呼ぶと書きましたが、最近質問を受けて調べ直したところ、根拠にしていた 2 サイトのうち 1 つは「正子(しょうし:ねの刻の中間)」と書き直され、もう 1 つは見当たらなくなっていました。広辞苑では「しょうし」となっています。お詫びして訂正します。

●普及活動

7月 25 日(金)、本庄市立藤田公民館主催

「サマーチャレンジ親子野鳥教室」で町田好一郎が、野鳥観察の基本についての室内勉強と、藤田小学校校庭でのバードウォッチングの実際を指導しました。

●会員数は

8月 1 日現在 2,215 人です。

活動と予定

7月 12 日(土) 8月号校正(海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次・佐久間博文・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

7月 20 日(日) 役員会(司会:田中幸男、各部の報告・新制度対応決定方針の検討・鳥獣保護区意見・その他)。

7月 22 日(火)「支部報だけの会員」に向けて 8月号を発送(倉林宗太郎)。

7月 23 日(水)見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワークハイキングコース下見会に参加(藤掛保司)。

7月 31 日(木)「みどりと川の再生埼玉フォーラム in 寄居」に参加(藤掛保司、海老原教子)。

●事務局の予定

9月 6 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

9月 13 日(土) 10月号校正(午後 4 時から)。

9月 20 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

9月 21 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

「話し声のボリュームをもっと下げましょう、鳴き声が聞こえませんよ」「雑がかえっているからもう鳴かないよ」「だったら、ますますボリュームを下げる必要がありますよ」…(5 分後、私に聞こえよがしに)…
「話しをするのは自由だよなあ」

私は、そのカメラマン達とその場を離れるまで居残りしました。(山部)

しらこぼと 2008 年9月号(第 293 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazukuh@hotmai.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社